報徳@なう
発行人：本岡俊郎

五月二十八日、皆様のご支援のおかげをもちまして令和五年度通常総会を開催し、令和四年度の事業報告と決算報告、そして令和五年度の事業計画が承認されました。正会員十七名中出席者は六名、委任状十一名でした。

守屋輝彦市長、佐々木ナオミ県会議員も出席されました。会員の皆様にご報告させていただきます。

令和四年度事業報告

入荷総数　83．2t（前年度73．2t）113％
配布数量　77．7t（前年度69．3t）112％
配布先団体　116団体

コロナ禍は次第に終息し支援の必要性も落ち着いてきましたが、昨年来の食品を始めとする物価上昇は、少ない年金で暮らす高齢者等収入の少ない方の生活を圧迫していて、新たに支援を必要とする方達が増えています

困窮者の窓口になっている行政や社協の方々からの食品提供の希望件数が増えてきました。福祉の最前線で働く方たちにとって、いざ必要な時に食品が手に入るというのは心強いそうです。食のセーフティネットワークとしての役割が根付いてきました。

小田原市、南足柄市、箱根町、開成町、大井町の、ひとり親家庭約300世帯を対象とした支援活動については、より充実したものになりました。食品配布会の他に、お母さん（お父さん）の誕生月にお寿司とケーキをプレゼントする他、夏休みなど学校の長期休業時期に餃子の王将さんから餃子お弁当を提供いただき配っています。

昨年秋から、高齢者の方達へは食品の他に、肉じゃがなどの手作りのお惣菜をお配りしています。まだ件数は少ないですが、徐々に広げようと思います。

報徳食品支援センターの事務所を、所有者の前理事長・田嶋亨さんから譲り受けました。それを機に改修して倉庫としての機能を整備しました。また元は料理店でしたので、調理機能を整備して使えるようにしていきます。

コロナが終息していくとともに、この3年間活動を支えていた様々な助成金が出てこなくなり、令和5年度は運営資金を集めるのが大変難しい年になっております。経費を節減するとともに、新たな資金を手当てする努力をしております。

令和五年度　事業目標

配布目標は、前年並みの80t程度を考えております。量よりも質を大事にしたい。しかし物価高騰により生活が苦しくなっている人たちは、確実に増えてきており、状況の変化に迅速に対応していきます。特に、少ない年金で暮らす高齢者支援に重点を置きます。

しかし、事業報告で説明をさせていただきましたが、コロナ禍が過ぎて応募可能な助成金が非常に少なくなってしまい運営資金が不足する状態が続いています。持続的に活動できる体制つくりを優先課題として取り組んでいきます。

センターの畑と花壇



報徳食品支援センターの駐車場の周りには畑と花壇があります。種や苗は当センターの顧問さんが提供してくださいます。畑は、障がい者作業所「ありんこホーム」の方達がボランティアの方と一緒に、野菜と花壇の管理をしてくださっています。5月末には、じゃが芋と玉ねぎを収穫しました。皆さんのご支援があってこその報徳食品支援センターだと感謝いたします。

当センターの前を通る時ちょっと目を向けてください、これからマリーゴールドが国道沿いに咲き誇ると思います。





報徳食品支援センター　〒250-0212 小田原市西大友 136－1　℡070-1432-9559　houtoku.foodbank@gmail.com